

## ○コートリル錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 ヒドロコルチゾン (U) Hydrocortisone 【分類】 糖質副腎皮質ホルモン剤

【単位】 ○10mg/錠

【常用量】 10～120mg/日 [適用症は添付文書参照]

【用法】 分1～4■原発性下垂体機能低下症には日内変動を考慮して15～20mg/日を1日2回として朝食後に多く投与する

【透析患者への投与方法】 減量の必要はない (3) が、透析患者の消化管は脆弱であるため注意 (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要なし (3,12)

【特徴】 ヒドロコルチゾン製剤。ミネラルコルチコイド作用も有するため、Na貯留、低K血症などに注意。

【主な副作用・毒性】 誘発感染症、白内障、緑内障、骨頭無菌性壊死、ミオパシー、副腎皮質機能不全など

【モニターすべき項目】 血糖、尿糖、GTT、成長・発達 (青少年)、視床下部-下垂体-副腎 axis 機能検査、眼科的検査、血清電解質濃度、便潜血

【吸収】 100% (11)

【F】 初回通過効果を受けて9～74%が消失する (11) 100% (14) 95.9% (1)

【tmax】 1～2hr (1)

【代謝】 CYP3A4 で代謝 (1) 肝で急速に代謝され、腎やその他の臓器でも代謝を受ける (U) グルクロン酸抱合、テトラヒドロ化合物に代謝 (1)

【排泄】 尿中未変化体排泄率1% (14) 1%未満 (1) 非活性代謝物として腎から排泄 (U) 尿中回収率60～70% [po, 24hr まで] (1) 【CL】 350～500mL/min で投与量に依存する (10) 18.2L/hr [iv] (1)

【t1/2】 1.5～2hr (U) 1.3～1.9hr で投与量に依存する (10) 90 (60～120) min (11) 1.5～2.0hr (12)

【蛋白結合率】 very high (U) 75% (1) 75～95% (10) トランスコルチンに80%、アルブミンに10%結合 (11)

【Vd】 0.3～0.5L/kg で投与量に依存する (10) 0.4～0.7L/kg (11) 33.7L/man (1)

【MW】 362.46

【透析性】 低いと思われる (5) 資料なし (1)

【TDM のポイント】 有効治療域 50～250ng/mL (14) コルチゾールの血中濃度は変動が大きく、補充量の指標にはならず、TDM の対象にはならない 【O/W 係数】 高い (11) 資料なし (1)

【相互作用】 リファンピシン併用により薬効が減弱した副腎不全の1例 (松山桃子, 他: 日腎会誌 59: 725, 2017) 生ワクチン禁忌 (1)

【最大効果発現時間】 1hr

【効果持続時間】 1.25～1.5日 (ステロイドの作用持続時間は臓器内の生物学的半減期に依存する。)

【備考】 副腎不全には1日2～3回投与で適用するが、サーカディアンリズムを再現するのは難しく、半減期の長いメドロールやプレドニゾンも二次選択肢。コートリス5mgはメドロール1mgに、コートリル4mgはPLS1mgに相当

【更新日】 20220530

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。